

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

| | |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

| | | | |
|----|----|----|-----|
| 分野 | 音楽 | 種目 | 音楽劇 |
|----|----|----|-----|

応募区分(応募する区分を選択してください。)

| | |
|------|-----|
| 応募区分 | C区分 |
|------|-----|

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

| | | | |
|---------|---|--------|-----|
| 複数応募の有無 | 有 | 応募総企画数 | 2企画 |
|---------|---|--------|-----|

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

| | |
|--------------------|--------------------------|
| 複数の企画が採択された場合の実施体制 | 公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能 |
|--------------------|--------------------------|

文化芸術団体の概要

| | | | | |
|-------------------------|--|----------|--|--|
| ふりがな 制作団体名 | とくていひえりかつどうほうじんみらまーれオペラ | | | 団体ウェブサイトURL |
| | 特定非営利活動法人ミラマーレ・オペラ | | | www.miramareopera.com |
| 代表者職・氏名 | 理事長・松山郁雄 | | | |
| 制作団体所在地 | 〒 | 223-0053 | 最寄り駅(バス停) | 東急東横線綱島駅 |
| | 神奈川県横浜市港北区綱島西2-2-12プリオール綱島式番館503 | | | |
| 電話番号 | 045-530-8350 | | | |
| ふりがな 公演団体名 | みらまーれオペラ | | | 団体ウェブサイトURL |
| | ミラマーレ・オペラ | | | www.miramareopera.com |
| 代表者職・氏名 | 芸術監督・松山郁雄 | | | |
| 公演団体所在地 | 〒 | 制作団体に同じ | 最寄り駅(バス停) | 制作団体に同じ |
| | 制作団体に同じ | | | |
| 制作団体 設立年月 | 2008年10月 | | | |
| 制作団体組織 | 役職員 | | 団体構成員及び加入条件等 | |
| | 理事長・松山郁雄 理事・樋本英一 理事・馬場紀碧 監事・米村桐子 | | 指揮者、演出家、ピアニスト。歌手はオペラを専門とする歌手をオーディション採用。経験と実力を有し芸術的達成感のためではなく聴衆のための演奏姿勢を常に保てる者。 | |
| 事務体制 事務(制作)専任担当の有無 | 事務(制作)専任の担当者を置く | | 本事業担当者名 | 松山郁雄 |
| 経理処理等の 監査担当の有無 | 有 | | 経理担当者 | 米村桐子 |
| 本応募にかかる連絡先 (メールアドレス) | ikuo@miramareopera.com | | | |

| | | | | |
|-------------------------------|---|--|-----------|--|
| <p>制作団体沿革・主な受賞歴</p> | <p>平成18年1月19日 有限会社ミラマーレ・ムジカ設立</p> <p>平成20年10月15日 特定非営利活動法人ミラマーレ・オペラに組織変更、現在に至る</p> <p>平成24年度より令和元年度まで京都芸術劇場春秋座においてオペラ制作業務を受託。これまでに「ラ・ボエーム」「蝶々夫人」「セヴィリアの理髪師」「椿姫」「カルメン」「魔笛」を制作上演。</p> <p>令和5年度、令和5年度文化芸術による子供育成推進事業(芸術家の派遣事業)で横浜市教育委員会との連携により横浜市内の小中学校への芸術家派遣を行う。今年度も継続中。</p> <p>平成27年度より本事業(学校巡回公演)の初採択を得て現在に至る。</p> | | | |
| <p>学校等における公演実績</p> | <ul style="list-style-type: none"> ◆平成17年 東京都江東区立東陽小学校でオペラ「愛の妙薬」日本語訳詞上演。 ◆平成22年 長野県北信地区高校音楽鑑賞会でオペラ「愛の妙薬」日本語訳詞上演。 ◆平成28年11月28日 君津市市民文化ホールにおいて翔凜中学高等学校の芸術鑑賞会で「椿姫」と「愛の妙薬」のハイライト・コンサート。 ◆平成29年8月24日 えりも町立えりも中学校で「椿姫」と「愛の妙薬」のハイライト・コンサート。 ◆平成30年2月15日 春日部市民文化会館にて春日部共栄中学高等学校芸術鑑賞会でオペラ「カルメン」を上演。 ◆平成27年度～令和6年まで10年間、本事業に連続採択。全国の小中学校で本応募作品のオペラ「てかがみ」を多数上演。 ◆令和3年6月30日 八王子J:COMホールで八王子学園の芸術鑑賞会としてオペラ「カルメン」を上演。 ◆令和4年8月28日 成田高校芸術鑑賞会としてオペラ「カルメン」の映像収録(コロナ対策版) | | | |
| <p>特別支援学校等における公演実績</p> | <p>今年度10月28日に山梨県立高等支援学校桃花台学園で応募作品であるオペラ「てかがみ」の実施を予定しています。今年9/26(木)に開催したワークショップでは軽度の知的障害の生徒に対して適切で効果的だと評価を頂き、成果を上げる事ができました。</p> <p>昨年度までの公演においても、支援学級の生徒さん達も問題なく積極的に参加をして頂いています。体育館のステージ前に設置する特設ステージ(約90センチ高)の両サイドは体育館の床面をそのまま使用するので、車椅子や松葉杖使用の生徒さんも問題なく参加が可能です。</p> | | | |
| <p>参考資料の有無</p> | <p>申請する演目のWEB公開資料</p> | <p>有</p> | | |
| | <p>※公開資料有の場合URL</p> | <p>https://youtu.be/3CaygZDg4bQ</p> | | |
| | <p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p> | <p>ID:</p> | <p>不要</p> | |
| | | <p>PW:</p> | <p>不要</p> | |

| | |
|----|----|
| 別添 | あり |
|----|----|

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 ミラマーレ・オペラ 】



| | | | | |
|---|--|-----------|----------------------|---|
| 対象 | 小学生(低学年) | ○ | 小学生(中学年) | ○ |
| | 小学生(高学年) | ○ | 中学生 | ○ |
| 企画名 | 命と呼びかけの大切さを知ってもらえる オペラ「おこんじょうり」 | | | |
| 企画のねらい | <p>1.ワークショップと本番を通じてオペラという舞台芸術をもっと知ってもらいたい。またプロの歌手と同じ舞台に立つという体験の中で「身体という楽器」は生徒達も同様で、無限の可能性があることを実感してもらいたい。</p> <p>2.「いじめ」問題に対する教材として:きつねと老婆の交流というストーリーの中から、相手の見た目や印象に囚われることなく声を掛け合い、互いを理解しようとする気持ちを学んでもらいたい。</p> <p>3.長年に渡って舞台制作に携わっているキャストやスタッフと共同して一つの作品を作り上げるプロセスを肌で感じてもらいたい。</p> | | | |
| 演目概要・演目選択理由 | <p>登場人物はおこん(ソプラノ)・ばばさま(アルト)・ごんすけ(テノール)・じんざ(バリトン)の歌手4人。シンプルにピアノと打楽器による演奏でオペラは進行します。盲目の老婆と子ぎつねの心の交流と、欲に目がくらんだ人間の愚かさを描いた秀作。学校内のいじめが顕在化している昨今、この作品は老婆が子ぎつねに愛情を注ぐようになる過程を通し、外見にとらわれず多くの人と通じ合うことの大切さを伝えます。オペラは歌芝居であり、「言葉」を伝えることの重要性を訴え続けた作曲家林光の意図が反映された作品です。人間の肉声の素晴らしさを通してドラマを明快に伝える優れた作品と考え、演目選択理由としました。</p> | | | |
| 児童・生徒の参加又は体験の形態 | <p>1. 開演前にレクチャーを伴ったミニコンサートを行い、オペラ歌手の歌声やさまざまな打楽器の音色を身近に感じてもらいます。</p> <p>2. おこんの仲間の子ぎつね役(4人～6人程度)と噂話をする村人役(10人程度)、不思議なじょうりの効果役として森の木々や風になって出演(20人程度)してもらいます。</p> <p>3. 終演後には感想を発表してもらい、キャストも生徒さんからの質問に丁寧に答えます。希望があれば生徒さんとキャストとによる意見交換会を行うことも可能です。</p> | | | |
| 児童・生徒の参加可能人数 | 本公演 | 参加・体験人数目安 | 10人～30人程度 | |
| | | 鑑賞人数目安 | 300名程度(体育館の大きさによります) | |
| 本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付 | <p>オペラ「おこんじょうり」 作曲: 林光 台本: 若林一郎 演出: 三浦安浩 じょうりダンスの振付: 三浦奈綾 学校公演版の構成: 松山郁雄</p> <p style="text-align: right;">公演時間 凡そ70分</p> | | | |
| 出演者 | <p>おこん: 藤井 研 ばばさま: 柚友 恵子 じんざ: 町英 和 ごんすけ: 高昌 伸吾 ピアノ: 巨瀬 励起 打楽器: 竹内 美乃莉</p> | | | |
| 演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名 | <p><メインキャスト>藤井研(ソプラノ): 東京藝術大学卒業。同大学院修士課程博士後期課程修了、音楽博士号取得。大学院アカンサス音楽賞、三菱地所賞音楽部門受賞。よんでん文化振興財団奨学生。第28回奏楽堂日本歌曲コンクール入選。</p> <p><ピアニスト>巨瀬励起: 東京藝術大学音楽学部楽理科卒業。田中美江、田代慎之介、小林道夫の諸氏に師事。声楽の伴奏者、オーケストラの鍵盤楽器奏者として多くにキャリアを持つ。小編成アンサンブル「巨瀬フィルオペラバンド」主宰。</p> <p><演出家>三浦安浩: 国立音楽大学、メーランド大学大学院修了。新国立劇場「セルセ」で演出家デビュー。近年の代表作として金沢市共催「禅～ZEN」、静岡県民オペラ「イリス」など。現在、桐朋学園大学大学院特別招聘講師。</p> | | | |
| 本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む | 出演者: 6 名 | 運搬 | 積載量: 2 t | |
| | スタッフ: 8 名 | | 車 長: 6 m | |
| | 合 計: 14 名 | | 台 数: 1 台 | |

| 本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安 | 前日仕込み | | 無 | | 前日仕込み所要時間 | | 時間程度 | |
|---|---|--------|---------------------|---------------|-----------|------------|-------------|--|
| | 到着 | 仕込み | | 上演 | 内休憩 | 撤去 | 退出 | |
| | 8時 | 8時～10時 | | 13時30分～14時40分 | ナシ | 14時50分～17時 | 17時30分 | |
| ※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。 | | | | | | | | |
| 本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認 します。(大幅な変更は認 められません) | 6月 | | 7月 | | 8月 | | 9月 | |
| | 14日 | | 14日 | | 0日 | | 0日 | |
| | 10月 | | 11月 | | 12月 | | 1月 | |
| | 0日 | | 10日 | | 15日 | | 17日 | |
| | ※平日の実施可能日数目安をご記載ください。 | | | | 計 | | 70日 | |
| 公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出が わかる写真) | <p>舞台設営は主にステージ下のフロアを使いますが、ステージ上にも木立を置き導線の一部として使用します。 大小5枚の移動式のパネルを緞帳の役割の他、様々なシーンの表現に使用します。 舞台写真(上)フロア下に設置した舞台と登場人物全員 舞台写真(下)全景で楽器の配置も良くわかるアングル</p> <p>実際の演技エリアは10m×10m程度。 別添:<演出ノート>と<あらすじ></p> | | | | | | | |
| |  | | | | | | | |
| ※採択決定後、図 面等の提出をお願い します。 |  | | | | | | | |
| 著作権、上演権利等 の 許諾状況 | 各種上演権、使用权等の許諾手続きの要 否 | | 該当あり | | 該当コンテンツ名 | | 作品全曲が該当 | |
| | 該当事項がある 場合 | | 権利者名 林光 (日本音楽著作権協会) | | 許諾確認状況 | | 使用(上演)許諾取付済 | |

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

| | |
|----|----|
| 別添 | なし |
|----|----|

【公演団体名 **ミラマーレ・オペラ** 】

| | | | |
|---------------------|--|--------|------------------------|
| ワークショップのねらい | <p>1. オペラはマイクを使わない音楽劇であることを理解してもらい、全身を使った発声方法を歌唱指導によって体感してもらいます。</p> <p>2. 舞台上の登場人物として、リアクションはどのように行うか、観ている人達にその効果を伝えられるかを指導し、実際に体験してもらいます。</p> <p>3. 繰り返し練習をして技術や表現を身につける事は、日頃の学習にも当てはまる事をワークショップを通じて体験してもらいます。</p> <p>4. 演奏はピアノの他に様々な打楽器を持ち込みますが、演奏の実演の他、生徒達にも叩いてもらいます。学校の備品のトライアングルやカスタネットなどでプロの演奏家が様々なテクニックを披露します。</p> | | |
| 児童・生徒の参加可能人数 | ワークショップ | 参加人数目安 | 最低4名から30人程度(見学希望人数は任意) |
| ワークショップ実施形態及び内容 | <p>以下の2段階で実施いたします。</p> <p>① プレ・ワークショップ:公演日の4~2週間前を目安に、ZoomなどのWeb会議ツールを利用して作品概要と生徒参加部分についての説明をします。</p> <p>② 当日のワークショップ</p> <p>◆午前中の1校時分相当を使って出演する生徒の皆さんとのリハーサルを実施します。(45分)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. じょうりダンスの練習 2. 村人のじょうり風セリフの練習 3. 不思議なじょうりの効果を現す森の木々や風になるシーンの練習をします。 4. 質疑応答と本番までの確認等 <p>◆上演前に鑑賞する全児童生徒へ向けて簡単なレクチャーを実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導員の紹介とオペラについての説明 2. ミニコンサート(歌やピアノの演奏) 3. カラダを使った基本的な発声方法と感情表現の仕方等(15分) <p>当日のワークショップのレクチャーは主指導者と歌手2名、打楽器奏者1名、ピアニストの計5名で実施します。</p> <p>開演前のワークショップ。打楽器の体験(左)とミニコンサートの様子。ソプラノ独唱(右)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> | | |
| その他ワークショップに関する特記事項等 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 資料(譜面やパート別の模範演奏を収録した練習用DVD)を事前にお送りしますが、リモートによるプレワークショップと当日のワークショップを体験することで、自分たちの役割がいつそうリアルなものとなり、本番までにそれぞれの目標を作り上げる事が可能です。 2. 参加生徒さん達に登場してもらおうエリアは主に体育館のフロアを使用しますので、車椅子や松葉杖での参加も全く問題はありません。 | | |

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

| | |
|--|---|
| 別添 | なし |
| 本事業への応募理由 【公演団体名 ミラマーレ・オペラ】 | |
| 本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫 | <p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>a.弊団は、これまでに実力あるオペラ歌手を起用し「小劇場における多数回の公演」(オペラ界では希有な公演パターン)を実践して成果を上げてきました。鍛え抜かれたオペラ歌手の声と同時に、歌役者として繊細な演技・表現もしっかりと観客に伝える事に主眼をおいた活動をしてきました。体育館での公演は観客との距離も近く、小劇場での公演と共通点も多いので、歌声と共にきめ細やかな表現も楽しめるオペラ鑑賞には最適な環境と考えています。</p> <p>b.この事業は芸術鑑賞の機会を得た児童生徒にとって貴重な経験である事は言うまでもありませんが、同時に若手オペラ歌手が、感受性豊かな最高の聴衆(児童生徒)の前で演奏できる機会を得られる場所でもあり、併せて非常に意義の深い事業であると捉えています。</p> <p>c.義務教育課程で本物の芸術を体験する事は、個々の児童生徒にとって人生の方向性をも左右するものと考えています。舞台芸術の道に興味を持って頂く事は我々にとって大変に嬉しいことですが、それ以上に義務教育課程終了後は文化芸術全般に触れる機会がほぼ皆無となってしまいう児童生徒達のためにも、一生心に残るような上質な総合舞台芸術を体感してもらう事を心がけています。</p> <p>d.オペラは長期間の訓練で培われた生の歌声で創成される舞台芸術です。ワークショップを経て本番当日には参加生徒もプロのオペラ歌手と一緒に舞台上に立ち、一生忘れる事のできない貴重な体験をしてもらえる事に大きな意義と喜び、そして責任を感じています。</p> <p>e.全キャストとスタッフには、児童生徒はもちろん、教職員や保護者の皆様に対してきちんとした挨拶や積極的なコミュニケーションをとる事、優れた演奏者や技術スタッフである前にひとりの人間として優しさと礼節を持った行動をとるよう団体としての指導を徹底しています。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p>a.学校との連絡が解禁になって以降はプレワークショップから本公演当日まで、電話とメールを有効活用し、担当の先生と密に連絡を取りながら進めてまいります。連絡内容はログとして保存し、スタッフ間で共有するようにしています。</p> <p>b.本番当日の備品借用等については一覧表を作成して事前に打合せを行い、当日に学校側が慌てる事がないように進めます。終演後のゴミ収集や清掃、原状復帰については「来たときよりもキレイに！」をキャスト・スタッフに徹底させています。</p> <p>c.担当教員が芸術鑑賞準備等に対して様々な不安をお持ちの場合も少なくはないかと思いますが、事前の資料送付と密な連絡で、ワークショップと本番までの準備状況や生徒の練習の進捗状況について綿密なフォローを心掛けています。</p> |

| 別添 | なし |
|--|---|
| C区分で事業を実施するに当たっての工夫 【公演団体名 ミラマーレ・オペラ 】 | |
| C区分で事業を実施するに当たっての工夫 | <p>①離島・へき地等における公演実績</p> <ol style="list-style-type: none"> 紀美野町立美里中学校／平成27年10月15日(木)「てかがみ」 *キャストスタッフ数より生徒数の方が少ない小さな学校でした。 小値賀町立小値賀中学校／平成30年9月18日(火)「てかがみ」 *佐世保から高速艇で1時間程度の離島。前日入りでGPも行った事から島内に4日間滞在し、島民の皆さまの温かさにも触れることが出来ました。 嬉野市立大野原小学校併設校/令和3年9月21日「おこんじょうり」 嬉野市立吉田中学校/令和3年9月22日「おこんじょうり」 屋久島町立中央中学校/令和3年10月21日「おこんじょうり」 その他に令和3年は合計14校で「おこんじょうり」を実施しました。 <p>②離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 公演当日のワークショップ効率化のため、参加生徒対象でZOOMによる事前指導を行い、オペラ全般について興味を持ってもらうきっかけ作りと「おこんじょうり」のストーリーの解説、参加してもらう役どころやシーンなどについて事前に録画した動画も活用して説明をします。 訪れた土地の特産品や誰もが知っている地域の行事などを可能な範囲で上演作品の中に取り込み、作品をより身近に感じて貰える工夫をします。 <p>③C区分応募における、費用面の工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> Zoomを活用して参加生徒向けのレクチャー(プレ・ワークショップ)を行う事で、事前の学校訪問の省略が可能となり、派遣費を大幅に節約をいたします。 舞台費を極力抑えるために照明機材数は持ち込まず、自然光を効率的に取り入れた舞台にいたします。これまで照明に託していた「不思議なじょうり」の効果は、参加生徒による森の木々、風のざわめき等で表現する工夫をして作品のクオリティを充分に保ちます。 スタッフ数を絞り(前回の規模から照明スタッフ2名を減員)、キャストも搬入搬出、舞台・楽屋の設営、衣裳準備などのスタッフ業務を兼任する事で最小限の人数で最大限のパフォーマンスが出来るよう工夫をいたします。(スタッフ数10人→8人) 機材車はトラック1台で舞台大小道具、打楽器、キーボードも同梱とし、運搬費の効率化を図ります。 離島僻地での宿泊状況を十分に理解し、ホテル宿泊が困難な場合は旅館や民宿での相部屋等も問題はありません。 |

別添 ※別添は1企画につき3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

| リンク先 | No.2 | 【公演団体名 | ミラマーレ・オペラ 】 |
|------|---|--------|----------------|
| 項目内容 | <p><演出ノート> 「呼びかけ」と「応え」演出家 三浦安浩 このオペラにはたくさんの「呼びかけ」があって、それに対する「応え」も数多く描かれています。 お腹をすかせた子ギツネのおこんは、山奥に一人で住むイタコのばばさまの食べ物を盗もうとしますが盲目のばばさまが自分の正体を言い当てるので驚きます。ばばさまは、おこんが不思議なじょうりの力で頭痛や腰痛を治してくれたことに感謝し、おこんに親しみを持つようになります。 ばばさまは現実の世界を目で見ることはできませんが、決して物事の真実を見極められないわけではありません。むしろ、彼女の「心」は目が見える人間よりも研ぎ澄まされているのです。 おこんとばばさまは互いに親しみを込めて「ばばさま」「おこん」と呼び合い、そこに人間と動物というカテゴリーを超えた愛が生まれます。 私たちは普段、誰に呼びかけられ、その呼びかけにどうに答えて(応えて)いるでしょうか？ 誰かの思いのこもった呼びかけに「不安」や「疑い」のフィルターをかけて、その呼びかけの中にある「愛」を見過ごしてはいないでしょうか？「不安」や「疑い」「憎悪」の思いで誰かの名前を呼んではいないでしょうか？呼びかけには力があります。人種、文化、宗教、性の違いが多くの対立を生んでいる現代。私たちはこの世の中にある、多くの呼びかけに心を開かなければなりません。</p> <p><あらすじ> 人里離れた山奥で一人暮らすイタコのばばさま。すっかり当たらなくなった占いやまじないに、訪ねてくる人もなく寂しい毎日を過ごしています。そこへ腹を空かせた子ギツネのおこんが食べ物目当てに娘の姿に化けて現れます。しかし目の見えないばばさまにはいくら化けてもお見通し。それでも哀れに思っ、食べ物を与えるとギツネはそのお礼にと「不思議なじょうり」を喰ります。病気を治す効き目があるというその「じょうり」で、ばばさまは足腰の痛みも取れて大喜び！ばばさまは、ギツネのおこんからそのじょうりを教わろうとしますが、そう簡単にはいきません。そこへ谷底へ落ちて大ケガをした狐師のじんざが担ぎ込まれます。とっさに名案！とばかり、ばばさまはおこんに「じょうり」を喰らせて自分はロパクでまじないを披露。じんざのケガはあっという間に治ったものですから、ばばさまの神通力？は村中の評判となって、お城の殿様の耳にまで届きます。お姫様の病気も治し、褒美のお金をたくさん貰って帰りますが、ばばさまを城に送った馬子のごんすけは、ばばさまの大儲けにどうにも納得がいきません。いっそばばさまを殺して褒美の金を自分のものにしようと思いがかりですが、とっさにおこんが身代わりとなってばばさまを助けます。瀕死のおこんを助けようと今度は、ばばさまが必死に「じょうり」を喰りますが思いは届かず…。おこんは自分のために必死に「じょうり」を喰ってくれたばばさまに感謝しながら息絶えます。</p> <p>写真:おこんに一生懸命「じょうり」を教わるばばさま</p>  | | |